

1. 須藤 雄気

【現 職】：岡山大学 学術研究院医歯薬学域(薬学系) 教授

【生年月日】：1977年10月29日

【学 歴】：

2000年 北海道大学 薬学部総合薬学科卒業

2005年 北海道大学 大学院薬学研究科博士課程修了

(*2002年-2003年:奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 特別研究学生)

【職 歴】：

2005年 名古屋工業大学 大学院工学研究科 博士研究員

2005年 テキサス大学ヒューストン医療科学センター ポスドク

2007年 名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 助教

2009年 名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 准教授

2014年 岡山大学 学術研究院医歯薬学域(旧大学院医歯薬学総合研究科)(薬学系) 教授

【専門分野】：

「光をくすりへ!？」のキャッチフレーズのもと、光受容タンパク質「ロドプシン」の生物物理化学的研究とそれらに基づく生命機能の光操作研究を行っています。

【生物物理学会とのかかわり】：

2000年の入会と第38回仙台年会での口頭発表がきっかけです。ここで、教室外の窓越しからある方に質問され、また、別の方から発表後に「オモロイ」と言って頂いたことで、生物物理学会に骨を埋めることを決めました。以来、会員として上記の方々の振る舞いを参考に(?)、運営委員/理事(2011-2014, 2017-2020, 2023-2024)、年会副実行委員長(2018:岡山)、中国四国支部長(2019-2020)、副会長(2019-2020)、BPPB 誌副編集委員長(2022-2025)、生物物理誌副編集委員長(2026-現在)として活動してきました。したがって、本学会は私の研究者人生の全てです。

2. 飯野 亮太

【現 職】:自然科学研究機構 分子科学研究所 教授 総合研究大学院大学 先端学術院 教授

【生年月日】:1972年2月14日

【学 歴】:

1995年 京都大学工学部 高分子化学科 卒業

1997年 京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 修士課程修了

2000年 名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻 博士後期課程 単位取得退学

2003年 博士(理学)(名古屋大学)

【職 歴】:

2000年 科学技術振興事業団 ERATO 楠見膜組織能プロジェクト 研究員

2002年 科学技術振興機構 ERATO 吉田 ATP システムプロジェクト 研究員

2005年 大阪大学産業科学研究所 特任助手

2006年 大阪大学産業科学研究所 助手、助教(2007年 職名変更)

2011年 東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 講師

2013年 東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 准教授

2014年 自然科学研究機構 分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 教授

2014年 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授(～2018年)

2014年 総合研究大学院大学 物理科学研究科 機能分子科学専攻 教授(～2023年)

2018年 自然科学研究機構 分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 研究主幹

2018年 自然科学研究機構 国際連携研究センター 教授(～2023年)

2018年 名古屋大学大学院理学研究科 客員教授(～2019年)

2023年 自然科学研究機構 共創戦略統括本部 教授

2023年 総合研究大学院大学 先端学術院 先端学術専攻 教授

【専門分野】:

分子モーター、1分子計測、光学顕微鏡、タンパク質工学、DNA ナノテクノロジー。分子モーターの動きや形を調べる、分子モーターを創る、といったアプローチでその作動原理や設計原理を理解し、天然分子を凌駕する高性能・高機能分子モーター(システム)の開発につなげたいと考えています。

【生物物理学会とのかかわり】:

生物物理学会には化学専攻の修士課程学生だった 1995 年に入会しました。光学顕微鏡1分子イメージングに衝撃を受け博士課程で専門を生物物理学に変更して以来、30 年以上お世話になっています。学会運営との関りとしては、分野別専門委員(2014, 2020, 2026 モータータンパク質、2016 タンパク質工学)、邦文誌「生物物理」編集委員(2014-2015)、中部支部長(2019-2021)、理事(2019-2023, 2025-現在)、ウェブサイト編集委員長(2021-2022)、第 61 回名古屋年会実行委員プログラム担当(2023)、欧文誌「Biophysics and Physicobiology」編集委員(2024-2025)、副会長(2025-現在)、第 64 回韓国釜山年会実行委員(2026)を務めさせて頂いております。生物物理学会は常に私の研究活動の中心であり、楽しくワクワクする場所であり続けています。

3. 高田 彰二

【現 職】:京都大学大学院理学研究科 教授

【生年月日】:1965年9月10日

【学 歴】:

1988年 京都大学理学部卒

1990年 京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
総合研究大学院大学博士(理学)

【職 歴】:

1991年 岡崎国立共同研究機構技官(分子科学研究所)

1995年 日本学術振興会海外特別研究員(イリノイ大学化学科)

1997年 日本学術振興会特別研究員

1998年 神戸大学理学部化学科講師

2001年 神戸大学理学部化学科助教授

2007年 京都大学理学研究科生物科学専攻生物物理学教室准教授

2013年 京都大学理学研究科生物科学専攻生物物理学教室教授

【専門分野】:

計算生物物理学、特に生体分子シミュレーション。これまで主にタンパク質のフォールディング問題、分子モーター等生体分子機械の作動原理、およびクロマチン構造と転写制御に着目して計算科学的に研究してきました。

【生物物理学会とのかかわり】:

生物物理学分野の研究を始めたポストドク時代に入会し、それ以来約30年、私にとって中心的な学会です。2010-2011年・2012-2013年運営委員、2015-2016理事、2017-2018年副会長、2019・2020・2021・2022・2023年分野別専門委員、2021-2022年代議員、2025年第63回年会会長(奈良)。